

■6月20日

日航、株主総会、定款変更承認、全外国人株主に配当

日航は19日、破たん後初の定時株主総会を開いた。その中で、2014年3月期決算からすべての外国人株主に配当できるように定款変更する議案を承認した。これまでは航空法に基づき議決権の3分の1を超える外国人の持ち分については株主名簿に記載しておらず、配当の制約になっていた。今回の変更により、名簿に記載のない株主にも配当できるようになる。

(日経)6/19

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASFL190KN_Z10C13A600000/ \(->](http://www.nikkei.com/article/DGXNASFL190KN_Z10C13A600000/)

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASFL190KN_Z10C13A600000/\)](http://www.nikkei.com/article/DGXNASFL190KN_Z10C13A600000/)

ボーイング787対応：日航、補償交渉開始

日航は19日開いた株主総会の中で、植木義晴社長は、運航を再開したボーイング787型機の安全性に関する株主の質問に対し、「会社として飛ばして大丈夫と確認した。安全な飛行機であり、安心してご利用いただける」と回答した。

また同総会の中で、ボーイング787の運航停止に伴って収益が累計39億円圧迫され、米ボーイング社に対し補償を求める交渉を開始したことを明らかにした。

日刊航空によると、今年1月16日の787運航停止後、3月31日までの2012年度で17億円の減収、費用4億円減少と差し引いて収支上13億円のマイナス影響があったと述べた。また、2013年度は6月1日の運航再開までに48億円の減収、22億円の費用削減を加味して26億円の収支上のマイナス影響があったと説明。787運航停止に伴い、約39億円の損失になったという。

(日経)6/19

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASGD1901D_Z10C13A6EB2000/ \(->](http://www.nikkei.com/article/DGXNASGD1901D_Z10C13A6EB2000/)

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASGD1901D_Z10C13A6EB2000/\)](http://www.nikkei.com/article/DGXNASGD1901D_Z10C13A6EB2000/)

(日刊航空)6/20

[http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm \(-> http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm\)](http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm)

政府、民活空港運営法、参院本会議で可決

民活空港運営法は19日の参院本会議で、自民、公明、民主各党の賛成多数で成立した。月内にも施行する。これにより、着陸料の設定や空港ビル運営など空港全体の経営を民間企業が担えるようになる。

現在、滑走路などは国や自治体が管理し、民間企業が周辺施設だけを運営する形が多い。着陸料は原則として全国一律で、地方空港の就航便数が伸びない一因になっていた。今後は企業の判断で着陸料を引き下げ、格安航空会社(LCC)の就航便を増やすなどの手法がとれるようになる。

(日経)6/19

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS19009_Z10C13A6EB1000/?dg=1 \(->](http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS19009_Z10C13A6EB1000/?dg=1)

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS19009_Z10C13A6EB1000/?dg=1\)](http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS19009_Z10C13A6EB1000/?dg=1)

MRJ、小型ジェット旅客機市場、今後20年—5000機の新規需要を見込む

(ロイターによると)

三菱重工業の子会社、三菱航空機の川井昭陽社長は、日本国内で開発を進めている次世代旅客機「三菱リージョナルジェット(MRJ)」について、70—90座席の小型ジェット旅客機市場で一定の地位を占めるとの見通しを示した。

三菱航空機は、2008年3月にMRJの事業化を発表。開発問題を受けて初飛行は約1年延期され、2013年終盤に予定されている。

川井社長はロイターに対し、今秋までに最終的な組み立てを開始し、初飛行の目標を据え置くと述べた。

社長は18日、航空展示会「国際航空ショー」で、「われわれは長年、新たな民間航空機を製造してこなかった。これは

われわれにとって大きな挑戦だ」と指摘。三菱航空機は小型ジェット旅客機市場について、今後20年間で5000機の新規需要を見込んでおり、社長は自社とブラジルの航空機メーカー、エンブラエルが市場を等分に分け合うとの見通しを示した。

社長は、「多数の航空会社」がMRJに関心を示しているとしたが、詳細は明らかにしなかった。

MRJをめぐり、三菱航空機はこれまでに、全日本空輸(ANA)や米トランス・ステーツ・ホールディングス、スカイウエストから確定発注165機を受注したほか、オプションとして160機の契約を結んだ。

(MRJプレスリリース)6/19

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL3N0EV10220130619> (->

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL3N0EV10220130619>)

新石垣島空港、開港後、乗降客1.8倍、国際線チャーター便3.9倍

3月7日の南ぬ島石垣空港の開港後、乗降客数で1.8倍、国際チャーター便で3.9倍に伸びていることが、石垣市議会で明らかにされた。

八重山毎日によると、3月の着陸回数は923回で乗降客数は19万803人と前月から約1.8倍の伸び。国際チャーター便の着陸回数は昨年12月から3月までの1カ月平均で1.6回だったが、3～5月までの平均は6.3回と3.9倍に増えた。

また、7月にはスカイマークが参入し、スポットが過密になることが予想される」としてエプロンの拡張についての検討も必要となり、国際線ターミナルについては、県が9月補正で改修費用を計上するという。

(八重山毎日)6/19

<http://www.y-mainichi.co.jp/news/22679/> (-> <http://www.y-mainichi.co.jp/news/22679/>)

JNTO、5月、訪日外国人数、前年同月比31.2%増

日本政府観光局(JNTO)が19日発表した5月の訪日外国人数(推計値)は前年同月比31.2%増の87万5000人で、5月としては過去最高を記録した。単月ベースでは今年4月(92万3000人)、2010年7月(87万8000人)に次ぐ過去3番目の数字だった。

訪日客数の国・地域別でみると、インドが同23.6%増の8400人で単月ベースの過去最高を記録。また、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、ベトナム、米国、ロシアの9カ国・地域が5月の過去最高をそれぞれ更新した。一方、中国は同27.2%減の8万1600人とどまった。

(産経新聞)6/19

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/130619/biz13061914580014-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/130619/biz13061914580014-n1.htm>)

(JNTOプレスリリース)6/19

http://www.jnto.go.jp/jpn/news/data_info_listing/pdf/130619_mothly.pdf (->

http://www.jnto.go.jp/jpn/news/data_info_listing/pdf/130619_mothly.pdf)

* 出典: JNTO



Jnto5.png

Portable Network イメージフォーマット [82.9 KB]

[ダウンロード](#)

RAC、パイロットLCCへ流出、乗員繰りが厳しく欠航も

琉球エアークommuterは21日から30日まで、那覇—久米島線を現行の1日6往復から4往復に減便する。一方、5月は天候不良や機材の不具合で同路線が28便欠航、6月も15日までに6便が欠航した。

琉球新報によると、JTAの担当者は減便について「RACのパイロットが5～6月にかけて格安航空会社(LCC)へ流出し、乗員繰りが厳しかった」と説明。欠航については「早めに機材故障の原因を分析し再発防止に取り組みたい。人員体制も見直しJTAからパイロットをRACに派遣したい」と問題解決を図って考えを示した。

(琉球新報)6/19

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-208212-storytopic-4.html> (-> <http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-208212-storytopic-4.html>)

エア・コスタ、7月にインド国内線へ就航

(レスポンスによると)

新しく就航予定のインド国内線飛行機エア・コスタはインド民間航空総局(DGCA)からの最終認可取得中であり、7月には就航する予定だ。

最初はバンガロール、チェンナイ、ハイデラバード、ヴィジャヤワダ間を運航、今後は北インドの方にも航路を広げる。

エア・コスタ会長キャプテン・バブー氏は「今後機体の数を増やし、今までに無かった新しいルートでの運航を始めることによって、インド市場の更なる成長につなげたい」と語った。

(レスポンス)6/19

<http://response.jp/article/2013/06/19/200389.html> (-> <http://response.jp/article/2013/06/19/200389.html>)

イーージェット(LCC)、エアバスA320、100機購入

英格安航空会社イーージェットは、エアバスから、100機以上の旅客機を購入する契約を締結した。

同社は、パリで開催中の世界最大規模の航空展示会「国際航空ショー」で、エアバスの「A320neo」100機を100億ドルで、「A320」35機を30億ドルで購入する契約を結んだと発表した。

(ロイター)6/20

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL3N0EV0E720130619> (->

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL3N0EV0E720130619>)

クアラルンプール、格安航空会社専用ターミナル(KLIA2)、来年5月オープン

空港運営のマレーシア・エアポーツ・ホールディングス(MAHB)は開業が遅れていた、クアラルンプール新国際空港(KLIA)格安航空会社専用ターミナル(KLIA2)が、来年5月2日にオープンすると発表した。

総工費40億リンギ。年間取扱能力は4,500万人に達する見通しだ。

(マレーシアナビ)6/20

<http://www.malaysia-navi.jp/news/?mode=d&i=2069> (-> <http://www.malaysia-navi.jp/news/?mode=d&i=2069>)